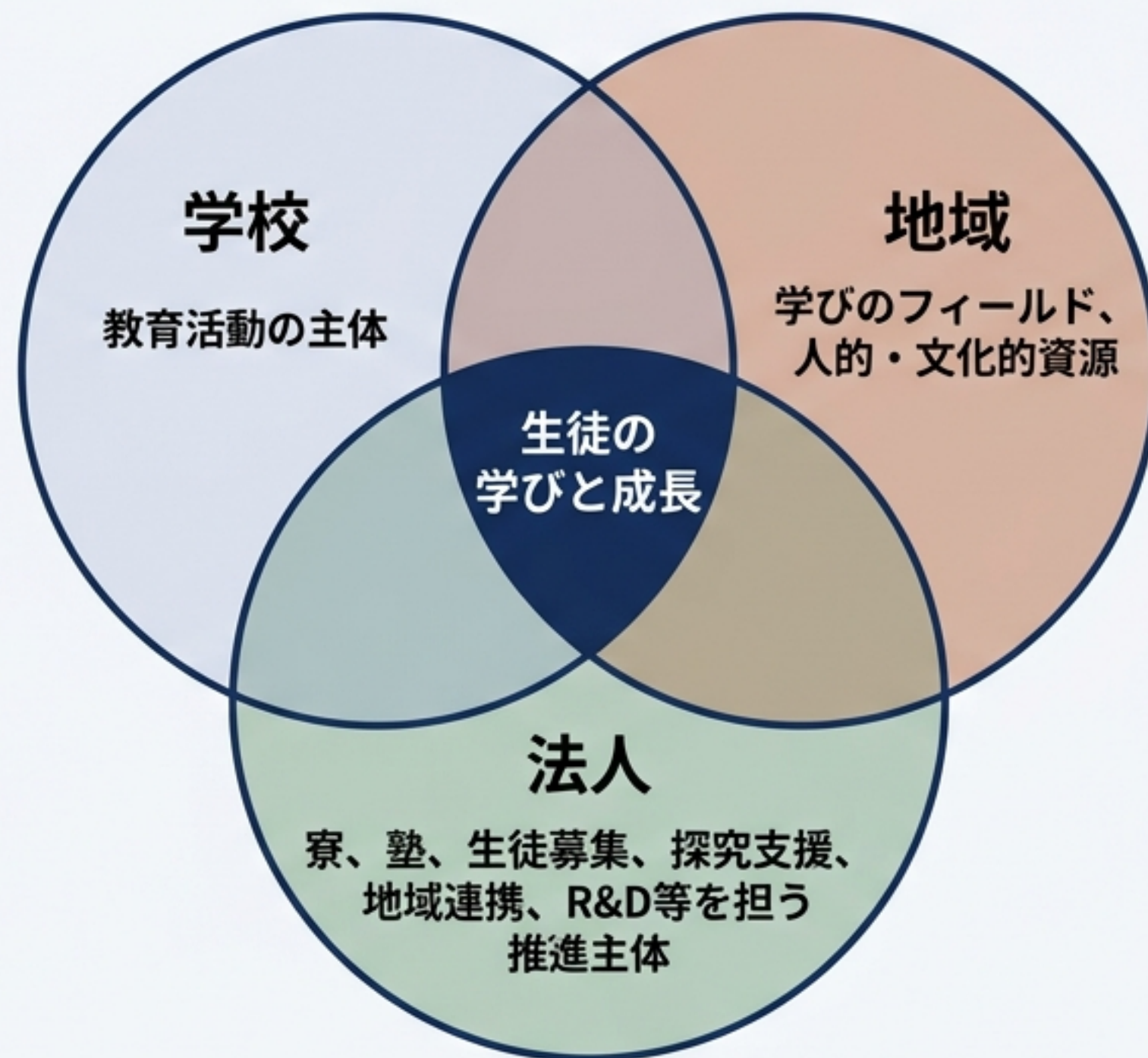


令和8年度第1回嶺北高等学校学校運営協議会 共有資料

令和8年度 嶺北高校魅力化 プロジェクトの取組について

一般社団法人れいほく未来創造協議会

魅力化プロジェクトの位置づけ



学校・地域・法人が、それぞれの役割を生かしながら、生徒の学びと成長を支える取組です。

これまでの成果と、現在の環境変化

令和7年度時点で見えてきた確かな基盤

- ✓ 地域外生徒募集の継続（接点確保232組、地域外入学者8名）
- ✓ 公設寮（27名体制の共同生活と厨房内調理の安定運用）
- ✓ 公設塾と学校の連携による国公立大学進学等の進路実現
- ✓ 嶺北探究における地域人材・資源との継続的な接続
- ✓ とまり木の分校等を通じた地域住民との学び合い（延べ104名参加）
- ✓ 海外研修等の多文化協働の取組（10名参加）

VS

今後見据えるべき環境変化

- ➡ 人口減少と教育ニーズの多様化
- ➡ 中山間小規模校をめぐる県立高等学校再編振興計画の動き
- ➡ 地域みらい留学参画校の増加による生徒募集環境の変化
- ➡ 広域通信制高校などによる進路選択の多様化（15歳人口の11人に1人が選択）
- ➡ 高校教育改革をめぐる国の動き

これまでの着実な歩みを基盤としつつ、変化する環境の中で「これからのあり方」を考える必要があります。

令和8年度の基本方針

地域唯一の高校として選ばれ続ける学びの場

日々の教育環境を支える取組の充実

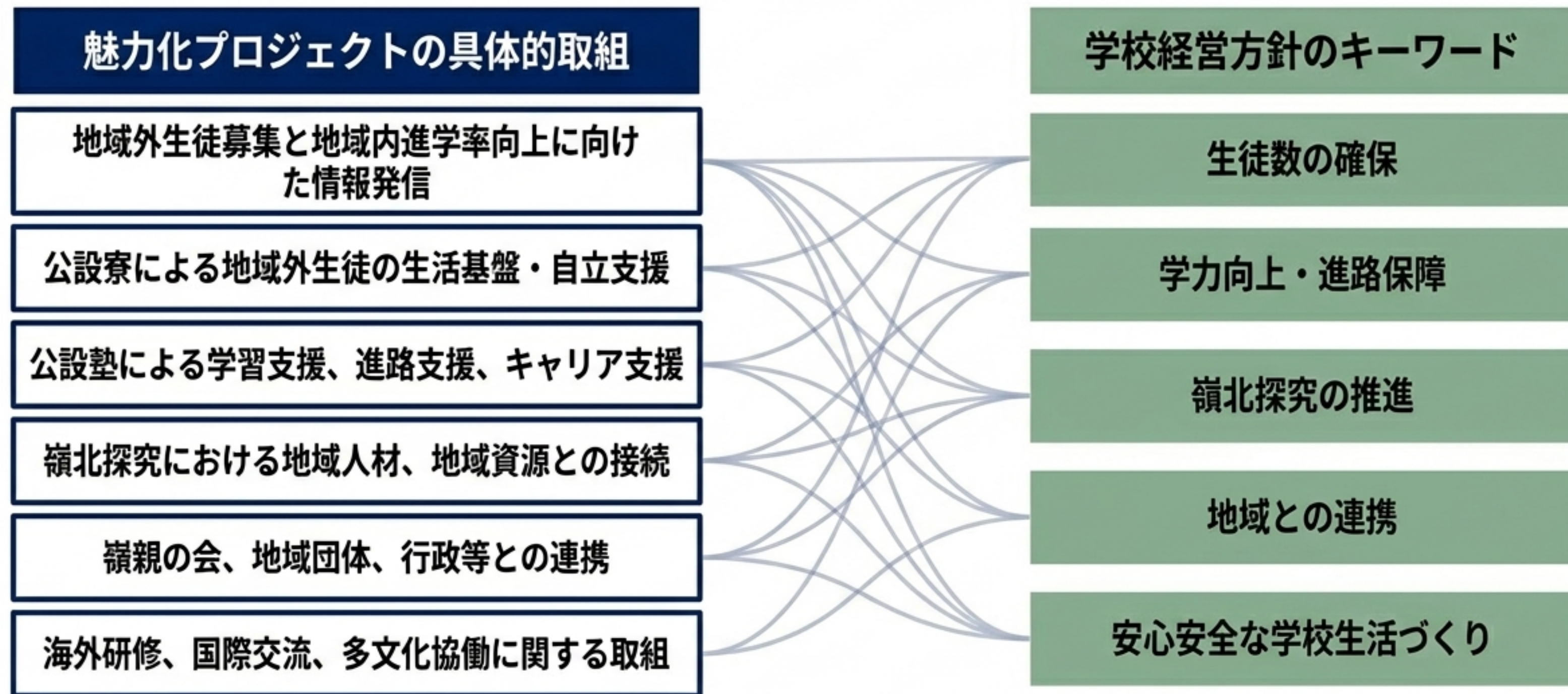
現在の生徒のために：
寮、塾、探究、生徒募集、
地域連携の基盤を整え、
日々の学びと生活を支える。

将来を見据えた教育環境の再定義

未来の生徒のために（R&D）：
人口減少や教育ニーズの変化
を踏まえた、2030年代以降の
嶺北高校のあり方の構想。

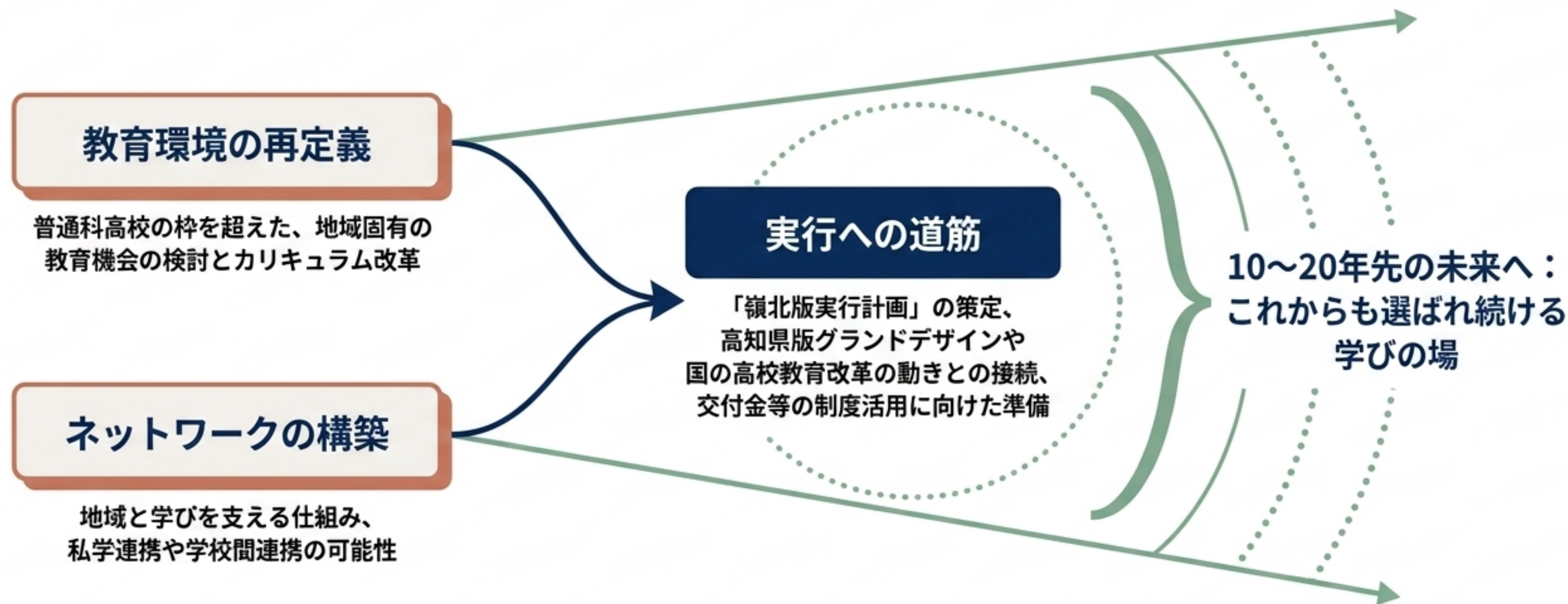
現在の生徒の学びを支えながら、次の時代に必要な教育環境を地域とともに構想します。

柱1：日々の教育環境を支える取組



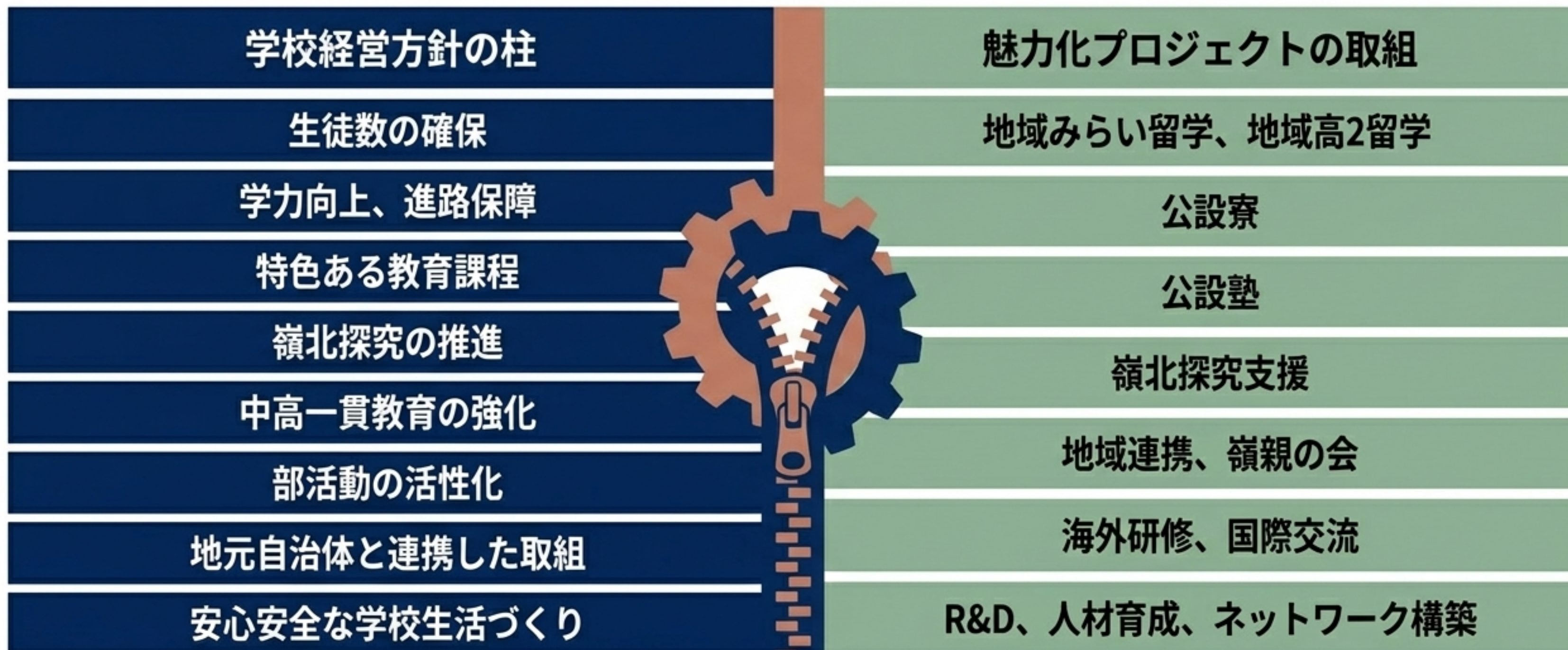
法人の各事業は、学校が目指す教育目標と連動し、日々の学びと生活の質を高めるために機能しています。

柱2：R&D事業の位置づけ



R&D事業は、嶺北高校がこれからも“選ばれ続ける学びの場”であるために、10年先・20年先を見据えた教育環境のあり方を調査・構想し、実行計画につなげる取組です。

学校経営方針との接続



学校と法人は、同じ目標に向かって役割分担をしながら、持続可能な協働体制を築いています。

意見交換に向けて

● 地域の資源、人、場をどのように生徒の学びにつなげられるか

● 地域全体で生徒の学びや挑戦を支える仕組みをどう育てられるか

「嶺北高校が、地域唯一の高校としてこれからも選ばれ続ける学びの場であるために、学校・地域・法人はどのように連携を深めていけるでしょうか。」

● 人口減少や教育ニーズの多様化を踏まえ、嶺北高校に必要な教育環境とは何か

● 地域住民と生徒の自然な接点をどう増やせるか

● 学校運営協議会として、R&D事業や嶺北版実行計画づくりにどのように関わられるか

委員の皆さまの地域での経験、専門的知見、ネットワークを、改めて嶺北高校魅力化にぜひお貸しください。